

第9回八重瀬町総合開発審議会  
議事録

日 時：平成21年6月11日（木） 14：00～16：30  
場 所：八重瀬町役場2階 会議室  
委 員：神谷会長、與儀副会長、安里委員、仲座喜榮委員、仲里委員、仲座恵子委員、  
野原委員、新垣勲委員、津嘉山委員、山内委員、安座名委員、伊集委員、  
樋岡委員（欠席：新垣清徳委員）  
八重瀬町：金城、上地、下門  
（株）国建：江田、与儀

第9回八重瀬町総合開発審議会議事

第1次八重瀬町総合計画総合計画（基本計画）について  
今後のスケジュールの確認について

【第1次八重瀬町総合計画総合計画（基本計画）について】

津嘉山委員：現況と課題は一つにまとめた方が読み取りやすいと考えられる。他の自治体の総合計画をみても現況と課題は一つにまとまっている。一つにまとめていくことは可能か。

事務局（上地）：課題が一番大事だと考えており、どの様な課題があるのかを示せるような表現をしていた。町民が見やすくわかりやすいような表現にしたい。

神谷会長：現況と課題は一つにまとめ、課題については目立つ表現にした方が良いと考えられる。

山内委員：現況はもっと簡略化したほうが良いと考えられる。

神谷会長：項目の流れを「町民の声 現況と課題 施策の展開 主要事業の推進」に変更した方が良いと考えられる。

山内委員：町民の声は参考になると考えられるので、町民の声は最初に持ってこないほうが良いと考えられる。

神谷会長：総合計画の作成にあたって、町民の意見を聞いていく方向性があるので、記載していくのは大事だと考えられる。

津嘉山委員：町民の声を最初においた方が見やすい流れになると考えられる。

伊集委員：現況を把握し、町民の声を聞くことにより課題を抽出することを考慮すると「現況 町民の声 課題」の流れの方が理解しやすいと考えられる。

與儀副会長：基本構想にもキーワードとして町民の声があるので省いても良いと考えられる。

事務局（上地）：構成については、最後の審議会で行った方が良いと考えているので、基本計画の内容について審議していただきたい。

【産業の振興による魅力と活力あるまちづくり - 1節 農業の振興 - について】

山内委員 : 3,000坪以上の畑地でないとサトウキビの補助が出なくなると聞いており、今後制度が変わっていく状況になってきているが、サトウキビは基幹作物なのでこれに関する施策を追加した方が良いと考えられる。

事務局(上地): 対策も検討している。サトウキビに関する施策が入っていないので、現況、課題、施策の展開に追加していく。

伊集委員 : 施策の展開 の方で受け取れると考えられる。

事務局(上地): 「サトウキビ」というキーワードを付け加える。

神谷会長 : 遊休農地は本町にどれくらいあるのか。数値目標をたてて解消していくように検討していかないといけないと考えられる。遊休農地に関する資料はあるのか。

事務局(上地): 経済課の方に確認をする。

神谷会長 : 実際に農地を借りて農業を行いたい人はいるので、このような有効利用を図ったほうが良い。

仲座喜榮委員 : 農業委員会の方で行っている。

伊集委員 : 現況 の方に記載されている。

神谷会長 : 数値目標を設定していった方が良い。

事務局(上地): 目標数値も検討していたが、全部の項目で目標数値を設定する事が難しいことから省いた経緯がある。

神谷会長 : 基本計画の中で数値目標を設定していなくても、実施設計の方で数値目標を設置するのではないかと考えられる。

事務局(上地): 実施計画は財政的な内容になっているので、数値目標の設定までは考えていない。

神谷会長 : 施策 「高度利用を図ります」を「促進します」に変更した方が良い。

施策 の「嫁不足」とあるが深刻な問題なのか。

施策 「地域ブランド」とあるが、物のブランドなのか、地域のブランドになるのか。「地域の特産品ブランド」とした方が良いと考えられる。

安座名委員 : 農業に関することなので、「特産品ブランド」でも良いと考えられるが、地域のことを情報発信することが大事になってくる。

安座名委員 : 旧東風平では「有機の里」といわれていたが

神谷会長 : 言葉だけが先行していて、実態が伴っていなかった経緯がある。

安座名委員 : 主要事業 のブランドに関しては、農・商・工・観等全体的のことを指しているので、「本町特有のブランド」のままで良いと考えられる。

事務局(上地): 主要事業 については、特産品のみだけではないので、このままで良いと考えられる。

神谷会長 : 施策 については、「サトウキビ」というキーワードを入れた方が良いか。サトウキビの問題は国、県全体の問題であり、本町のみで解決できる内容ではないので、現在の文言で良いと考えられる。

- 山内委員 : P13「農家戸数の推移」にある「第1種」「第2種」と、P12「経営耕地面積の推移」の注釈「農家以外の農業経営体」とはどのような意味なのか。
- 事務局(上地):「第1種」「第2種」は、日数何日以上で生計をたてている分類。
- 神谷会長 :「農家以外の農業経営体」農業就業者以外のことを言うのではと考えられる。
- 山内委員 :農家戸数は平成17年であり、経営耕地面積の推移は平成12年になっているので、追加してほしい。
- 事務局(上地):データに関しては、最新情報に差し替えていく。
- 山内委員 :農家戸数が減少していくのが、データ上にも見えてくるので、対策が必要だと考えられる。
- 神谷会長 :農業人数の減少に関して大きな問題となっているが、今の審議会で対応していくのは難しい。
- 新垣勲 :土地改良が行われているので、農家戸数や生産高は今後上がっていくのではないかと考えられる。
- 仲座恵子委員 :具志頭、東風平は観光の通過ルートだけになっていると聞いているので、地域の活性化のために、地域の掘り起こしを検討した方が良いと考えられる。

【産業の振興による魅力と活力あるまちづくり 2節 漁業の振興 - について】

- 樋岡委員 :水産業も農業と同様に後継者不足の問題がある。担い手確保についても毎年2名程度増えているが、高齢者が3分の2を占めている状況となっている。
- 県全体でも担い手確保が課題となっている。
- 八重瀬町では、パヤオを中心の漁業となっている。
- 問題としては、燃料の高騰等がある。
- 野原委員 :現況 に補助制度と明確に謳ってあるが、施策の展開にも補助制度の内容を追加した方が良いと考えられる。
- 山内委員 :雄樋川の水が海に流れているが、雄樋川の洗浄化の問題があると考えられるが、どの分野に入っていくのか。
- 事務局(上地):自然環境保全の分野に入っている。また施策 で謳っている。
- 神谷会長 :補助制度については、施策の展開に盛り込んでいく必要がある。
- 事務局(上地):補助制度は近代化施設整備事業に関連してくると考えられるので、そのような文言を追加することを考えている。
- 神谷会長 :施策 の育てる漁業とはどのようなことか。
- 樋岡委員 :稚魚を育てて放流すること等を言う。
- 神谷会長 :施策 「検討を図る」を「設置を促進します」の方が良いと考えられる。
- 事務局(上地):必要性はあると考えられるが、検討していかないといけない現状であ

- るため、促進や推進を使用していないと考えられる。
- 伊集委員 : 組合が事業主体になれば行政としてもバックアップできると考えられる。
- 神谷会長 : 組合と連携しながら行っていないといけない。施策 「検討を図ります」を「設置を検討します」に変更する。
- 樋岡委員 : 直売所を作る計画があったが、漁港にある店舗に影響がでることから、直売所設置を見送った経緯がある。
- 山内委員 : 地産地消という文言が多すぎる感じがする。
- 神谷会長 : 「地産地消」が施策 と があるので、 の地産地消は削除しても良いと考えられる。
- 津嘉山委員 : 地産地消とあるが、漁獲量が少ないと難しいと考えられる。漁獲量に関するデータがあると良い。
- 事務局(上地): データを追加する。また、主要事業の推進 に関しては、「農業の振興」にもあるので、「農業の振興の「地場産品の研究・開発・ブランド化促進事業」参照」のような表現にする。

#### 【今後のスケジュールについて】

- 神谷会長 : 次回の審議会については、7月14日午後2時を予定とする。

以上